

大学出版

The Association of
Japanese University Presses
No.141
2025.2
冬

「特集」 学術出版の流通と販売

—— 第四〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー

韓国大学出版部の現況と未来探索

—— 流通を中心として 崔相根・金恵智 1

韓国側報告へのコメント 朝倉哲哉 8

日本の出版流通システムのしくみと現状

—— 入門編 土橋由明 9

日本側報告へのコメント 楊光俊 15

初めてづくしの日韓セミナー

—— 参加報告記 戸坂美果 16

●特別寄稿

韓国・朝鮮の出版史と日本 田中美佳 18

「連載」何年経っても忘れられない、編集者の一冊《16》

早稲田大学・震災復興研究論集編集委員会編／鎌田薫 監修

『震災後に考える——東日本大震災と向き合う92の分析と提言』 武田文彦 表2

大学出版部ニュース 23



一般社団法人
大学出版部協会

大学と社会を結ぶ
知のネットワーク

何年経っても忘れられない、編集者の一冊(16)

早稲田大学・震災復興研究論集編集委員会編
鎌田 薫監修

『震災後に考える』——東日本大震災と向き合う92の分析と提言』

武田文彦(早稲田大学出版部)

震災後に
考える

早稲田大学・震災復興研究論集編集委員会(編)
監修▶鎌田 薫

東日本大震災と向きあう

92
の分析と提言

早稲田大学出版部

私たちが4年間に考えつづけたこと

忘れない!
学ぶ!
行動する!

本書のもととなったのは、早稲田大学ブックレット(『震災後に考える』)シリーズ。2011年11月から2013年9月まで、計37タイトルを刊行した。本書はその総仕上げとしての意味ももつ。発売は2015年3月25日。惜しくも3月11日には間に合わなかったが、何とか3月中の発売間に合った。

装丁：笠井亜子、印刷・製本：大日本法令印刷[早稲田大学出版部・2015年/B5判並製・1024頁・定価7260円]

早大出版部に入社して一四年、多くの本の編集に関わった。特に一冊を挙げるのであれば、『震災後に考える』——東日本大震災と向き合う92の分析と提言』だろう。B5判一〇二四頁という大部の論文集である。

本書を企画したのは、当時の私の上司で編集担当取締役だった伊東晋さん。伊東さんは有斐閣に長く勤められ、同社退職後に弊社に來られた。早大における弊社の存在意義や役割について、常に考えておられた。そして、早大出版部が真に自立可能な組織となるために、自ら大学に対して提案し続けることの必要性を説いていた。大学や教員にとって弊社は「自分たちの本を出版してくれるための受動的な存在」としてとかく捉えられがちだからだ。

本書刊行当時、早大では多くの教員・機関が東日本大震災後の被災地支援活動を行っていた。しかし横の連携がなく、誰がどこでどのような活動をしているのか誰も把握していなかった。伊東さんはそれを見て、震災から四年の節目で一連の活動を書籍としてまとめ、後世への記録として残そうとした。

早大には学術院が一〇ある。各学術院から編集委員として一人就任いただき、論文執筆者を推薦いただいた。それに編集部意向も反映させて、ジャーナリストなど含む一〇二人余りの執筆者リストができた。それをもとに依頼をかけた結果、約七割にのぼる九二人が賛同してくださった。

当時入社五年目だった私は、一〇二人への執筆依頼のほか、版面設計、原稿催促、割付、校正などの編集作業にあたった。非常に大変だったが、この時のご縁で、その後出版のご相談をいただいた先生も多い。自分自身にとって編集者として何物にも代えがたい大きな経験や人脈を得られた。

鎌田薫総長(当時)の支援もあり、大学による買い上げ含め制作した一〇〇部は完売、増刷も実現した。大成功の企画となった。

伊東さんはこの本を最後に早大出版部を去られた。私もいつか、こうしたスケールの大きな本をつくりたいと願い、日々奮闘している。

特集＊学術出版の流通と販売

韓国大学出版部の現況と未来探索

——流通を中心として

崔相根
(啓明大学校出版部)

金恵智
(蔚山大学校出版部)

I 韓国の学術出版市場の現況

環境の変化

二〇二四年四月に発表された「二〇二三国民読書実態調査」(文化体育觀光部)によれば、成人のうち昨年一年間に本を読んだ人は四三%に過ぎず、その数は過去一〇年にわたり減少しています。また、媒体別読書率の推移として、紙の本は四〇・七%から三二・三%へと減少した反面、電子書籍は一九%から一九・四%へとわずかに上昇しました。

そして「二〇二三出版市場統計」(大韓出版文化協会)では、学術／専門書の売上額が下落しているなか、二〇二一年は上昇に転じています。これはコロナ禍によるオンライン授業の影響で一時的に上昇したものと推察されます。

韓国大学出版部の現況

韓国大学出版協会(以下、協会)の加盟数は二〇二四年六月現在で四三校であり、二〇一〇年度の八八校から約五〇%減少しています。また、大学出版部の多くが少人数の職員で運営されているうえ、人事異動や大学側の事情により他部署と統廃合されるなどもあり、専門書出版が徐々に難しくなっています。

これまで大学出版部が学術出版に専念できたのは、その出版経費を教科書販売で賄えたからです。大学の教養教育の縮小や実務型の専門教育の強化、違法コピーの横行、さらにはコロナ禍によるオンライン授業の導入もあり、教材の売上は急減しました。

協会と会員校はこの状況を打開すべく、独自の支援事業や教材の電子書籍化、電子書籍の半額教材販売など、さまざまな改善策を試みています。また政府レベルでも、過去

二〇年ほどにわたり優秀学術書籍選定支援事業を実施するなど奨励策を展開しており、以降はこれらの施策について詳しく述べます。

II 学術出版の支援政策

大韓民国学術院の優秀学術書籍選定事業

大韓民国学術院は、二〇〇二年から教育部の支援で優秀学術書籍選定事業を実施しています。この事業の目的は、基礎学問の優秀学術書籍を選定することで優れた研究成果を共有し、研究および著述活動の活性化を図ることです。

二〇二三年度は約三〇〇〇点の書籍が申請され、その中から二九九点が優秀学術書籍に選定されました。なお、二九九点中、協会会員校の書籍は一四%を占めており、これは学術書籍市場における大学出版部の貢献度と影響力を示す数値だと言えるでしょう。

韓国出版文化産業振興院の「世宗図書」事業

「世宗(セゾン)図書」は、文化体育観光部傘下の韓国出版文化産業振興院が毎年実施している優秀書籍選定事業であり、出版産業の意欲の喚起および国民の読書文化の向上を図ることを目的とした国策事業です。

選定された書籍は全国の図書館などに無料で納本されており、小規模な図書館や文化疎外地域の図書館など書籍購入が困難な地域の蔵書の拡充を目的としているのです。

大学出版部の学術出版の支援事例

代表的な例として「慶北大学校学術叢書執筆および出版支援事業」があります。これは公募の中から選ばれた優秀な論文に二二〇〇万ウォンを支給し、慶北大学校出版部から書籍化する事業です。

そのほかにも、啓明大学校出版部は出版文化賞制度を実施しています。出版した書籍のなかから一冊を選び、著者に賞金(二〇〇万ウォン)を贈呈するのです。また、韓国学中央研究院出版部では、「韓国学著述賞」として韓国学に関連した学術書籍一冊を選定しており、二〇二四年は著者が三〇〇万ウォンの賞金を手にしました。

III 韓国大学出版協会の書籍流通事業の現況

推進の背景および目的

大学出版部の多くは、小規模ゆえに営業担当者を置かず、新刊の宣伝活動を展開することは難しい状況です。また、供給率(正味)のような重要な取引においても条件交渉ができず、さらに販売金の決済や在庫状況の把握においても不当な慣行が続いています。

協会傘下の実務委員会は、二〇一六年から約一年間にわたり、この状況を改善すべく書籍流通システムの向上と電子書籍事業の推進について研究を進めてきました。そのなかで、紙の本についてはマーケティングの専門家が多い「SNH」が、電子書籍についてはインターネット書店の

「YES24」が、ビジネス・パートナーとして現れたのです。協会は、会員校のマーケティングの活性化と協会の財政拡充という二つの目標を設定し、二〇一七年の定期総会で書籍流通事業を推進することに決めました。そして二ヶ月後の六月に「流通事業推進計画」を策定し、会員校に参加を要請しました。

紙の本の流通事業

概要および推進の経過 二〇一七年八月より、会員校二〇校の書籍について、協会は委託業者であるS N Hを通じて書店への出荷を始めました。委託業者を立てたのは、直営とした場合の事業失敗のリスク負担を回避するためです。S N Hは、売上先（書店）のネットワーキングおよび管理、書籍注文および返品処理、さらには在庫管理などの総販（取引）業務を行う一方、販売代金は協会へ直接入金し、協会から会員校の書籍の仕入れ金とS N Hの委託手数料を支払う方式としました。

しかしながら、S N Hは目標であった年二〇億ウォンの売上を達成できず約二年後に事業から撤退し、次に契約を交わした「パップルエヌエス」も経営難から契約解除となったのです。その後、協会は二〇二三年度の上半期に、より規模の大きな「自由書籍」と契約を結びました。

売上・仕入れ推移 協会の決算上の売上・仕入れの推移は、事業を始めた二〇一七年八月は土台作りの程度でした

が、翌年の売上は八億ウォンを計上し、二〇一九年には一億ウォンを達成しました。しかし二〇二〇年はコロナ禍により大学の講義がオンラインに変更されたため、教材購入率が大幅に下落します。そして、コロナ禍終息後もオンライン授業の常態化や書籍の違法スクリーンが横行し、売上はさらに減少しました。

推進評価 事業の運営過程で判明した問題点が大きく三つあります。第一に各会員校の総販（取引）供給率の混乱が生じ、供給率が七五%以上の会員校が多いなか、「協会供給率七〇%」の論理を説得することは困難でした。第二に協会が総販（取引）ブランドとしては新参者であったため、認知度を上げるのに時間が必要でした。そして第三に確実な事業運営を行ったはずが売上不振となり、結果的に流通規模の拡大に失敗しました。その一方、慢性的な課題であった過剰な未収金と在庫把握の問題を解決できたことは、大きな成果でした。

協会の流通事業の目的は収益の向上ではなく、出版物に対する円滑な流通の仕組みを作ることでした。換言すれば、協会は大学出版部の書籍をワンストップで供給する一つの窓口になろうとしたのであり、これについてはある程度の成果を達成したと言えるでしょう。

電子書籍の流通事業

概要および推進経過 二〇一六年当時、協会で電子書籍

事業を行うのは難しい状況でした。その理由は、出版契約書に電子書籍の流通をめぐる条項が無い場合が多く、ファイルが流出する懸念も強かったことと、電子書籍の製作費が大きな負担となっていたからです。

そのなかでY E S 24から、一五〇〇点以上のコンテンツを集めて電子書籍の独占販売権をY E S 24に与えたうえで、Y E S 24は独占販売権料の名目で二億四〇〇〇万ウォンを電子書籍事業に投資するという提案がありました。協会はこの提案を受け入れた結果、二〇の会員校が電子書籍事業に参加することになったのです。

売上・仕入れ推移 協会は、二〇一七〜二〇一八年は電子書籍の製作に注力し、二〇一八年からインタートネット書店に電子書籍を提供しました。その結果、コロナ禍が始まった二〇二〇年には対前年比約三五%の売上の伸長となり、二〇二一年の売上は対前年比四〇%近く増加しました。二〇二二年から若干の減少傾向が続いていますが、違法コピーがその原因と推察されます。

評価 この事業から会員校が得た教訓やノウハウとして、第一に電子書籍ファイルを多数確保すること、第二に出版契約を結ぶ際に電子書籍の条項を必ず追加すること、第三に電子書籍の開発プロセスを実際に体験しながら実用知識を増やしたこと、第四に電子書籍の需要と活用度の高まりに対応する力量を持つようになったことがあります。

課題は、依然として紙の本の新刊の電子化に熱心に取り

組む会員校が多くないことです。おそらく人材不足が大きな要因でしょうが、協会側で支援ができれば電子書籍の点数を画的に増やすことができると思います。

今後の展望

紙の本の流通事業は、直営体制の場合は売上額二〇億ウォンが損益分岐点であり、それが不可能な状況で事業を継続するには委託体制にする必要があります。また、委託業者は協会収益として売上額の五%以上を保障できなければなりません。

このような条件のなか、現在の委託業者である自由書籍の年間の売上規模は二〇〇億ウォン台であり、一億ウォン以下の協会業務が追加されても限界費用は大きくは増えません。現在の協会収益率は約四%ですが、売上規模を拡大できれば協会収益率を引き上げて提携を持続できるでしょう。

電子書籍事業は製作やデザインの点からPDF形式が目ざされていますが、講義形式の多様化やAI基盤サービスが増加していることから、今後はさまざまなフォーマットが登場すると予想されます。最近、協会と契約を締結した「プレクスル」のアプリ「スコーン」は、電子書籍に自由に書き込むことができ、そのデータを利用できるという革新的なビューアです。韓国外国語大学など四つの大学が「スコーン」を通じて「半額教材」のプロモーションを展開し、ある程度の成果がみられました。

また、販売価格はより重要であり、特に経済的に困難な学生ほど価格が購買意欲に決定的な影響を与えます。この点を考慮した電子書籍の製作と流通戦略を立てるならば、電子書籍事業の可能性はますます広がると予想されます。

IV 課題と提言

紙の本の流通システムの一元化

大学出版社の書籍の流通拠点を一箇所に集中することは、個々の大学出版社の状況とシステムが異なるため決して簡単なことではありません。しかしながら、協会の物流事業のデータとノウハウを基にアイデアを生み出し、新しい事業展開をする必要があります。そのためには、紙の本の物流事業を委託している自由書籍の運営の安定化が不可欠であり、さらに会員校が積極的に事業に参加し、書籍の一元化を後押ししなければなりません。また自由書籍の側も、各大学出版社のニーズを充分に考慮し、書籍の広報とマーケティング活動の強化、在庫管理の効率性と適正性の維持、

迅速な書籍流通システムの構築など、多角的な取り組みを行う必要があります。

電子書籍サービスの多角化

大学の教育環境や学生の学習パターンに顕著な変化が現れていることから、大学出版社の電子書籍サービスは多様なニーズを満たす以上のことが必要になります。したがって、それらの変化に対する徹底した事前準備や、読者が求める電子書籍サービスに関心を持つ必要があります。

協会は、前出したアプリ「スコーン」の提供と共に、電子書籍の半額サブスクリプション（六ヶ月）を試験的に行う大きな反響を得ました。また、アプリには画面キャプチャ禁止機能が搭載され、違法コピーの防止に寄与しました。この試験的な半額サブスクリプション事業は複数の大学出版社が行いましたが、韓国外国語大学校知識出版コンテンツ院では紙の本約四〇〇点を電子書籍化し、新入生の必修教養授業の教材を電子書籍だけで販売しました。その結果、

●人生をかけて、相手の人生を聞く

調査する人生

岸政彦



四六判・定価2530円

長い年月をかけて対象となる社会に深く入り込み、そこで暮らす人びとの人生や生活を描くフィールドワーカーたち。生活史調査で知られる著者が、打越正行、齋藤直子、丸山里美、石岡文昇、上間陽子、朴沙羅の卓越した六人のフィールドワーカーたちと「調査する人生」を語り合う。



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

www.iwanami.co.jp

販売部数は対昨年比四二三七部の増加、売上額は対昨年比約三六〇〇万ウォンの増加となったのです。

違法コピーの認識改善キャンペーンの展開

違法コピーの蔓延に関する問題は、オンライン学習の常態化により学生が違法コピーの深刻さを十分に認識していないことに端を発します。違法コピー、違法スキャン、違法共有が蔓延する事態となりました。

このため協会は、文化体育観光部および出版文化産業振興院と共に、二〇二三年下半期の試験事業の一環として、①著作権についての教育、②違法コピー禁止のポスターおよびリーフレットの製作・配布、③違法コピーの根絶のためのオンライン・バナー広告の展開、④大学新聞への違法コピー根絶広告の掲載、などを行いました。二〇二四年度は、①大学内における違法コピーのモニタリンググループの試験運営、②違法コピー申告センターの運営、③予防のための著作権特別講義の開設、④予防に向けた広報物の製作・配布・掲示、⑤学内報への広告掲載、⑥予防のためのバナー作成および大学内のオンライン掲示、⑦予防のための広報動画の製作などを行っています。

違法コピー予防の広報キャンペーン活動を大学内で最も効果的かつ積極的に行える場所は大学出版部であるため、協会の提案により大学出版部はこの事業を実施し、ある程度の成果を上げています。

半額教材のバウチャー事業の推進

現在、この事業はまだ初歩的な段階ですが、二〇二三年下半期にバウチャー事業に関するアイデアとして、半額教材のサブスクリプション事業を試験的に実施しました。しかしさまざまな面で不備が判明しており、協会はその経験を踏まえて事業モデルを作成し、計画案を提示しました。それは大学出版部をはじめとする学術出版社が流通業者と契約を結び、既存の紙の本の半額で電子書籍を提供することです。そして政府は半額教材サービスによって出版社の収益が大きく悪化することを考慮し、紙の本の定価の一〇〜二〇％をバウチャーとして支給するのです。

このような支援制度が実施されれば、出版社は電子書籍の販売収益として紙の本の六〇〜七〇％程度を得ることができ、固定的な収入と安定的な運営を可能にする資金の確保が期待できます。また、専門書は活用性が六〜一二ヶ月であることを考慮し、この期間だけ課金する方式のサブスクリプション（賃貸制）サービスの実施を検討しました。

これにより、大学生が専門書を譲渡する行為を防ぎ、出版社の損失を最大限に減らすことが可能だと判断したのです。

その際、バウチャーの支給方式として学生個人ではなく大学を通じて総額を支給し、学生がそのバウチャーを使うことが望ましいと考えました。なぜなら、バウチャー支援制度の趣旨を生かし、管理・監督により透明性を確保して事業を運営する必要があるためです。

政府の政策により初・中・高・大学までの教材を電子書籍化する日が来ないとは言えません。そのため、大学出版部もそれに対応するための準備が必要になります。以前、半額授業料の話が出た際には大学は破産すると言われましたが、政府が主導するさまざまな政策と奨学制度により、半額授業料以上の恩恵を学生は享受しています。したがって、半額教材のパウチャー事業もどうなるかは分かりませんが、何もしなければ厳しい未来が待っているでしょうから、私たち自らが将来に備えて準備すべきです。

V おわりに

これまで述べたように、学術出版の振興のためには新しい多様な試みを展開していく必要があります。学術出版の好循環機能の回復、大学における違法コピーの根絶、電子書籍サービスの多角化、そして学生の専門書購入負担軽減のための半額教材パウチャー事業などを通じて、新たな出版のシステムを構築すべきです。また、協会のイニシアテ

ィブにより電子書籍を授業に積極的に取り入れることで、将来の教育環境の発展の礎を築くことも必要です。

電子書籍が紙の本を完全に代替すると言うのは時期尚早ですが、AI時代を迎え急速に変化している出版市場に対して能動的に対応し、学習環境の変化に素早く応じる必要があることは明らかです。

そして、いま我々は何をすべきかを熟慮する必要があります。学術出版は、紙の本をつくるだけで終わるものではありません。出版と流通、紙の本と電子書籍、流通業者と書店、出版(団体)社と政府など数多くの繋がりが絡み合うなかで、我々は絶え間ない学習と挑戦が必要なのです。

その結果として、大学出版部は学術出版の最後の砦としてその役割を忠実に果たし、未来を切り開いていくことができると思います。

※ 本稿は、セミナーの報告原稿を大幅に圧縮したものである。圧縮の過程で適宜表現を補った(編集部)。

(近刊予定)

僕らとはびきり素敵 だった *How Beautiful We Were*

Imbolo Mbue著 / 波佐間逸博訳 「権力と腐敗をめぐる勤善懲悪の物語を、欲望機械の緻密な探求に昇華」。アフリカの現実を鋭く描き尽くした、切実で濃密な物語。3300円

それでも、彼女は学校へ

有井晴香著 エチオピア村落の教育とジェンダー。「抑圧」の日常から学校への多様な選択の東。切実な「リスキリング」を追う。4400円

ジャワ王宮舞踊

岡部政美著 無形文化遺産の伝承。ジョクジャカルタ王宮舞踊の発展と踊り手たちの回廊の語り。大衆化と新たな伝承を探る。5500円

ヨルダン社会経済の 変容

臼杵悠著 移民・難民受け入れ国家の所得・労働・女性参加。地域を横軸に、センサスや世帯調査を分析。変容の動態を描く。3850円

自閉スペクトラム症者 のまなざし

合崎京子著 言語人類学からみた当事者の社会的コミュニケーション。本人、調査者、医療従事者それぞれの相互作用と変化を詳述。5500円

天津市民の食生活 社会主義制度下の歴史人類学

劉征宇著 伝統を継承する街に導入された新国家の政策。70年におたる食事情の変化を、詳細な調査で分析した画期的業績。4400円

風響社

〒114-0014 東京都北区田端 4-14-9
〒03-3828-9249 (定価は税込)
URL: <http://www.fukyo.co.jp>

特集*学術出版の流通と販売

韓国側報告へのコメント

朝倉哲哉

(法政大学出版社)

韓国の実態調査で「昨年本を読んだ成人は四三%」という報告がありました。日本では成人の読書率に関する調査は行われておらず、大学生の読書時間の統計を見ると、一日の読書時間「0分」の割合は四五%から五〇%で推移しているようです。かつては大規模な教養教科書の販売により、学術書出版に注力できたとありましたが、近年の大学における教養教育の縮小、大型教養教科書の縮小・廃止、海賊版の横行、オンライン授業への切り替えなど、大学出版社の学術図書出版の危機が伝えられました。現状の各出版部の刊行物のなかで学内教科書の比重は、かつてと比べるとどのくらい減ってしまっただけでしょうか？

「世宗図書」という読書文化向上を図る目的の国策事業は興味深いものでした。国が選定した幅広いジャンルの良書を全国の図書館に無料配布されることで、小さな図書館や文化疎外地域にいる読者も多様な書籍を閲覧できるようになります。日本での図書館需要は決して少なくないですが、学術書を購入できるのは大都市の大きな予算を持った図書館などに

限られてしまっている現状です。

今回私が最も関心を持った報告は紙書籍流通事業です。各校がひとつにまとまることにより流通会社への交渉力を高めるという趣旨だそうですが、二〇一六年から研究を始められ、二〇一七年の八月には出荷を開始されたという実行力には驚かされました。単独で行動するより団結することで色々なコストが削減できることは、日本に置き換えてもイメージできる部分が多々あります。個別交渉より一括交渉の方が条件面の優位性はもちろん、個々の労働時間削減にも大きな効果を発揮するでしょう。

しかし、供給率（卸し正味）七五%以上の会員校を「協会供給率七〇%」とすることはとても困難だったと思います。どのような説得で受け入れられたのでしょうか。また、紙流通事業以外の販売ルートはどのようになっているのか、セールスマーケティングなどを委託会社に任せることで省力化を可能にする反面、仕事を失う人はいなかったのでしょうか。などいくつかの疑問も浮かんできました。

日本の大学出版社協会では、普段の活動を報告する小冊子の作成や、各社の書籍を大型書店でフェア展開することなど様々な協働をしておりますが、紙書籍流通事業のようなスケールの大きな活動は構想すらできていません。様々な問題点を解消しながら実行を続けられている努力に敬意を表するとともに、今後の事業成功を祈念しております。

特集* 学術出版の流通と販売

日本の出版流通システムのしくみと現状——入門編

土橋由明 (大阪大学出版会)

* 本稿は、日韓セミナー内で行われたグループセッションに向けて、はじめて日本の出版流通システムに触れる方(主に韓国側)に向けて書かれたものです。

はじめに——もし明日、出版流通システムがなくなったら

冒頭から突然ですが、「もし明日、出版流通システムがなくなったら」と、想像したくないことを想像してみることから始めてみましょう。もし明日、出版流通システムがなくなったら、どのようなことが起こるでしょうか。作った本の行き場がなくなり、うずたかく積もった在庫の前で、私たちはしばし途方に暮れることでしょう。これまで当たり前のように書店から注文が届き、当たり前のように倉庫から取次会社へ出荷していたことが、もはや遠い昔のことのように感じるかもしれません。しかし想像すらした

くないこの未来は、静かに、そして着実に目の前まで迫ってきているように感じます。日本の出版社はいま、出版流通の変革という大きな岐路に立っています。今回の日韓セミナーでは、まずは出版流通の特徴や問題をお互いに理解するために、日本の出版流通システムについてご紹介します。そして両国の違いや共通点を見出して、活発な意見交換ができることを期待します。

1 日本の出版産業の現状と出版流通システムの特徴

出版物の推定販売金額の推移

日本の出版産業の売上は、一九九六年の二兆六五六億円をピークに、右肩下がりの状態が続いています。その後は、インターネットの普及や電子メディアの台頭により、出版産業は変化の時期を迎え、さらに加速度的に紙の書籍や雑誌の売上が減少しました。二〇二〇年以降は、新型コ

コロナウイルスの感染拡大により、外出の自粛や在宅時間の増加、娯楽の制限などによる、いわゆる「巣ごもり需要」により、一時的に売上が伸びた時期もありますが、今後その減少は避けられないでしょう。

また、売上の減少にともない閉店に追い込まれる書店の数も増加しています。二〇年前と比較しても、約五〇%減となっており、書店「ゼロ」の自治体が、全国で約二七%を占めるともいわれています。こうした中、最近では、経済産業省が書店復興プロジェクトチームを結成し、官公庁の入札や、ネット書店の送料無料による実質的な値下げ、公共図書館における複本問題（同一タイトルの過剰な蔵書）など、さまざまな課題を政官民一体となって取り組んでいくことが発表されています。

独自の出版流通システム

日本の出版流通は、三つの独自のシステムによって特徴づけられています。

再販制度（再販売価格維持制度——韓国「図書定価制度」に相当） 日本の出版流通では、出版社が定めた価格で

出版物を販売することを義務づける再販制度が採用され、書店などで定価販売が行われています。独占禁止法では再販売価格の拘束を禁じていますが、出版物に関しては一九五三年の法改正により、適用除外が認められています。これにより、読者はどの場所でも均一の価格で出版物を購入

することができます。また出版物の価格が一定に保たれるため、出版社は新しいジャンルの書籍を積極的に刊行しやすく、多種多様な出版物が市場に供給されます。

一方で、この再販行為は独占禁止法に抵触することからも、再販制度の存続について、継続的に公正取引委員会と議論が重ねられてきました。そして、二〇〇一年には「当面存置」という結論が導きだされ、現在に至っています。ただし、その中でも再販制度の弾力的運用が求められるため、出版社側は、謝恩価格セールや部分・時限再販の実施などのさまざまな取り組みを行っています。

委託制度 委託制度も日本の出版流通を支える大きな役割を果たしています。書店は、出版社から出版物を「委託」として預かることで、一定期間内であれば、売れ残った商品を返品することができます。そのため、書店側では在庫リスクが軽減され、新刊書や話題性のある商品だけではなく、たくさんの種類の商品を店頭で陳列することができます。

一方で、返品が可能なこの制度により出版社への返品率は高止まりしています。取次会社による仕入部数の引き締めやマーケットイン型販売などの対策も行われていますが、書籍の返品率は約三五%超、雑誌の返品率は約四〇%超となり、書店や出版社の経営を圧迫する一因となっています。

取次会社の存在 日本の出版販売額のうち、その大部分が取次会社（卸売業者）を経由しています。この取次会

古代史の重要テーマを全国各地の遺跡との関係に着目して解説する

歩いて学ぶ 全3巻 日本古代史

新古代史の会編 各2420円
●邪馬台国から大化改新まで
大和王権の力が各地におよび地域の権力者も躍動した豊かな世界観。

石器づくりで何がわかるか

実験考古学教本 2860円
長井謙治著 〈実験〉して〈経験〉する新しい考古学の世界へと誘う。

歴史と文学の王朝時代史

古典に時代を読む 3960円
木村茂光著 政策と政情を分析し地方政治の実態などを解明する。

「史料学」講義

歴史は何から分かるのだろうか
小島道裕著 文書・絵画・遺跡…様々な「史料」を横断し特質と分析方法を平易に解説。 2420円

中世寺院のネットワーク

永村 眞著 文書・記録と聖教から寺院をとりまく人と人の交流、組織間のつながりを描く。 5720円

古文書が語る近世農村社会

大館右喜著 農民の心性をとらえ行動原理を解明する。 3850円

高楠順次郎と近代日本

8800円
武蔵野大学高楠順次郎研究会編 先駆的な教育・文化事業を推進した彼の思想と実践の特徴に迫る。

公家事典 (新訂版)

橋本政宣編著 中世・近世期の公卿3170余人の詳細なデータベース。 24200円 『内容案内』呈

吉川弘文館

東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151
価格は10%税込



●取次・書店ルート



図1 モノの流れ

次に、読者に本が届くまでを、「モノ」・「お金」・「情報」の視点から考えましょう。

II 読者へ本が届くまで

図にあるように、出版社から取次会社、書店、そして読者へ本が届けられます。左端の「出版社」は、出版社が在庫管理を委託する倉庫会社を示す場合が多いです。日本の大学出版部でも、その規模によってさまざまですが、自分たちのオフィスに倉庫を併設しているケースもあれば、外部に倉庫を借りて、そこから取次会社の倉庫へ出荷しているケースもあります。取次会社の倉庫は、東京都や埼玉県に集中しているので、私が所属する大阪大学出版部では、大阪府ではなく、埼玉県近郊の倉庫会社を借りて、商品を保管・出荷しています。

また取次会社は、たんに商品を運ぶだけではなく、書店の立地や規模、過去の販売実績をもとに作られた独自の「配本パターン」に基づいて、出版社に代わって商品を書店へ送品する「営業代行機能」と、書店にとっては自動的に商品が入荷する「仕入代行機能」も兼ね備えています。

「お金」の流れ

次は「お金」の流れについて見てみましょう。取次会社は、「モノ」を運ぶ物流機能とともに、「お金」を運ぶ金融機能も担います。本が売れた際には、書店に代金を請求し、出版社へ代金を支払います。各出版社の出版流通条件はそれぞれ異なりますが、大きく「委託条件」と「買切条件」とに分けることができます。「委託条件」は、委託期間内であれば返品が可能であり、新刊の多くはこの「委託条件」で出荷されます。「買切条件」は、客注や店頭補充充分などの書店からの自主的な仕入れに対する条件であり、原則として返品はできません。日本の出版社の多くは、この二つの流通条件を併用していますが、一部では、「買切条件」のみを採用している出版社もあります。

また、この金融機能には、お金を運ぶ以外にも、資金の調整や、与信管理をするという機能も含まれます。出版社は、取次会社に商品を納入しさえすれば、一時的ではあります。その分の売上が立ち、手元に資金が入ってきます。これは資本力のない小さな出版社が多数存在する日本の出版業界にとって、大きな役割を果たしています。一方で、新刊点数を大幅に増やし、その大部分を取次へ納品して運転資金を得るなど、いわゆる「自転車操業」に陥ってしまい、商品の質の低下や、市場への過剰供給などの悪影響を及ぼす一因となっています。

「情報」の流れ

最後は「情報」の流れです。出版社は新刊が出る際に、取次会社へ情報登録用の見本書籍を送付します。取次会社はそれをもとに書誌データを作成し、取引先の書店や一般読者へ新刊情報として届けます。また、書店からの売上情報を集約して、マーケット状況を出版社に提供するなど、情報流通の要として機能しています。

二〇一四年には出版業界全体の書誌データベースとして、出版情報登録センター（JPRRO）が設立されました。こちらは、出版社自身が書誌情報や出版形態、出版権の設定状況などを登録し、取次会社や書店向けに情報を発信するプラットフォームとなっています（二〇二四年三月時点で、出版社約二八〇〇社、三八〇万点にもおよぶ情報が登録されています）。それまで、出版社や取次会社、書店が各自で書誌情報を作成していましたが、このJPRROの誕生により情報が一元化され、よりスピーディーに読者へ情報が届けられるようになり、出版権情報の管理や予約販売などに活用されています。

電子書籍

情報という点では、電子書籍も含まれるかもしれませんが、電子書籍については、それだけでもう一回セミナーが開催できるほどのボリュームになりますので、ここでは少し触れるだけにとどめます。

知泉書館

変革する12世紀 テキスト/ことばから 見た中世ヨーロッパ

岩波敦子 行政文書の分析から人々の時間意識の変化や共同体の記憶を読み解く文書メディア論 菊/488p/6200円

アラビア哲学から アルベルトゥス・ マグヌスへ

一神教的宇宙論の展開

小林 剛 神学と哲学を統合し一神教哲学を構築、体系化を試みた独自の形而上学を考察する A5/190p/3200円

13世紀の自己認識論 アクアスバルタのマトウス からフライベルクの ディートリヒまで 〔知泉学術叢書18-2〕

ピュタラ/保井亮人訳 多様な論説に近世の問題意識が現れる。中世と近世をつなぐ貴重な文献 新書/816p/7200円

ヘーゲル『精神哲学』 の基底と前哨

栗原 隆 デジタルアーカイブを活用し、哲学的経験や人間模様等から生きたヘーゲル像を描く A5/378p/5400円

世阿弥の「花」を知る 能楽論と謡曲を通して

鈴木さやか 「花」の伝統を踏まえた世阿弥の能楽論と謡曲について、基本構造を解明する試み A5/308p/5500円

中国の秘密結社と演劇

田仲一成 謎に包まれていた秘密結社の社会構造を現地調査に基づき解明した陰の中国近現代史 菊/460p/6000円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税別)
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166
<http://www.chisen.co.jp>

電子コミックが
約80%を占める

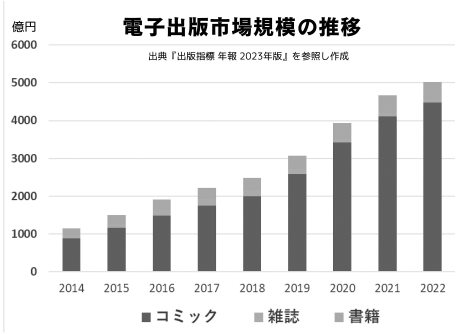


図2 電子出版市場規模の推移

場の拡大は今後も続くことが予想されています。その販売形態もさまざまな形で

ここまで日本の出版流通の特徴について駆け足でご紹介しましたが、それはほんの一部分にすぎませんし、一日で

日本の電子書籍市場の特徴としては、コミックの占有率が圧倒的に高く、全体の八五%を占めています。市場全体の規模は年々拡大しており、二〇二二年度には五〇一三億円をこえ、コロナ禍前の二〇一九年と比較すると約一・六倍も成長しています。この市場の拡大は今後も続

提供されており、1コンテンツごとに対価を支払うものや、定額料金（サブスクリプション）による読み放題サービスなどがあります。私たち大学出版部においても、近年電子書籍を取り扱う社は増えていきます。大阪大学出版会の場合では、新刊の発売と同時に一定期間において、ほぼ全点を電子書籍化して配信しています。販売ルートは、主に「個人向け」と「機関向け」（図書館、研究機関など）に大別され、前者については紙の本と同様に、電子書籍の取次会社を経由して販売し、後者については、主要書店が運営する図書館向けプラットフォームへ配信を行っています。またオンライン授業の拡大にともない、電子教科書のニーズも高まり、大手通信会社が運営する共同プラットフォームが各大学にも導入されつつあります。

おわりに

出版流通のすべてを語ることは到底できません。われわれ出版社を取り巻く状況は、日々変化し続けています。冒頭でお話しした「もし明日、出版流通システムがなくなったなら」と問いかけた状況は、本当にもうそこまで来ているかもしれません。

日本はいま、減少の一途を辿る書店とその出版文化の拠点を守るために、ようやく国レベルでの振興策を検討し始めています。韓国ではすでに出版社や書店に対して、さまざまな振興政策や支援策が行われています。たとえば公共図書館の納入を地元の書店へ優先することや、書店が売るものはたんなる「本」ではなく、「文化」と位置付けることなどがあげられます。その結果、独立書店などのリアル書店が続々と誕生し、最近では書店数も増加傾向を示していることにたいへん驚いています。また、「出版文化産業振興法」「図書定価制」を背景に、国のサポートを受けながら独自の発展を遂げてきた韓国出版業界に、いま日本の出版関係者からも熱い視線が注がれています。個人的には、日本が近い将来体験する未来を、先に体験しているのが韓国だと考えています。日本の出版社もこれから起こる変化に、いち早くどう対応していくかが重要になるでしょう。

私たち日本の出版社も、業界内の固定観念にとらわれることなく、その周辺で今起きていることにきちんと目を向けることが、その先の未来へとつながっていくものだと思います。もしかししたら今回のセミナーでは、そうした種が

たくさん蒔かれているかもしれませんので、ぜひお互いさまざまな意見を交換して、ともに未来への扉をあけて進んでいきたいと思います。

本日はありがとうございました。

【参考情報】大学出版会が行う共同事業（流通面）

○ 図書館への新刊見計らい納品

全国の大学・公立図書館五〇館へ、協会独自のジャンルに基づいて、新刊の見計らい納品を行っています。

○ 新刊速報

月に一度、各社の新刊情報と各社が作成したチラシを、全国の書店・図書館・大学等へ郵送しています（約三四〇〇部）。

○ 合同ブックフェア

各書店にて、加盟出版部のおすすめ本やテーマに基づいたブックフェアを定期的に開催しています。

○ WEBサイト運営

協会専用サイトを設けて、加盟出版部の新刊情報やフェア情報などを掲載しています。

日本側報告へのコメント

楊光俊

(忠南大学出版文化院)

ご報告冒頭で「もし明日、出版流通システムがなくなったなら」と提起されたときの第一印象は、暗いものでした。現在の韓国出版界の状況もあまり良くないですし、私が所属している大学出版部も大変な状況にあるため、そのような思いを強く抱いたのかもしれない。いままでは当然のように倉庫から小売店へ書籍を送っていたのですが、次第にその量が減り、結果として倉庫の在庫が多くなり、出版社の売上が減少している状況は、あまり嬉しいものではありません。

ご報告を聞いて気になった点を、いくつかお伺いしたいと思います。

1 韓国の図書定価制(再販制度)は、すべての書籍につき、種類に関係なく定価の一〇%までしか割引を許可していません。日本の再販制度では、最大何%の割引価格で読者が書籍を購入できるのか、気になります。

2 日本出版販売株式会社と株式会社トーハンが日本の巨大な取次会社と述べられましたが、新規出版社がこれらの会社と契約できない場合、他の取次会社との流通契約は可能で

しょうか? もし他の取次と流通契約が可能となれば、二つの巨大取次と取引した場合と比べて売上規模がどのくらい異なるのか、おおまかな説明は可能でしょうか? そして他の取次とも流通契約が結べない場合、書店と直接取引を行った際の流通マージンはどのようになるのでしょうか? 巨大取次と取引した場合と、書店と直接取引をした場合の出版社の利益率の違いについても、ご教示ください。

3 日本の出版流通の条件として「委託」と「買切」があると説明されました。韓国の場合、以前は買切であっても流通が活発であった聞いていますが、現在は主に「委託」と「現金前払い」のようです。もし「委託」と「買切」の両方が可能な状況であれば、出版社としては返品不可となる「買切」がおおいに有利にみえますが、どうお考えでしょうか? そして「買切」の場合は流通マージンも異なると思われますが、両者の流通マージンの違いが気になります。

4 最後に電子書籍に関する質問です。大学出版部協会加盟出版部の電子書籍の発行点数は、年にどれくらいでしょうか? また、定価は紙の本に比べてどれほどでしょうか? 大阪大学出版会の昨年一年間の電子書籍の総出版点数および販売数についても、ご教示ください。

現在、出版社の状況が厳しく、取次の状況も厳しいのは、書籍販売の減少によるものとみられます。これは「読者離れ」とも言えますが、これに対する突破口や解決策について深い議論が必要だと考えます。

初めてづくしの日韓セミナー——参加報告記

戸坂美果（関西学院大学出版会）

二〇二四年七月一日に開催された、第四〇回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーは、実に二一年ぶりとなる北海道札幌市で開催された。風が涼しく過ごしやすい七月の札幌に、韓国大学出版部協会の代表団一四名に加え、日本側も全国から約三〇名が集結した。

取次店の意味を再認識

セミナーでは「學術出版の流通と販売——現状と課題」というテーマで発表がおこなわれた。日本側の発表では、日本独自の出版流通システムの仕組みが解説され、再販制度、委託制度、取次制度について説明があり、読者に本が届くまでの物流のしくみについて発表があった。

韓国側の発表では、學術出版市場の変化について、読書率の低下や様々な要因により學術書が売れなくなっており、その打開策として国の支援による優秀學術書籍選定事業な

どが紹介された。また、日本のような取次会社がない韓国では、紆余曲折がありながらも大学出版部協会が委託業者と契約し、流通システム改善のために奔走した経緯が語られた。

気がつけば出版業界に身を置いて三五年。取次店がない世界を想像したこともなかったが、この当たり前になっていた日本の流通システムは、現在時代の流れとともに大きな転換期にさしかかっていると感じる。大きく形を変えながら、出版社・書店・読者のための最善を目指して多様な進化を遂げていくことだろう。

また、特筆すべきは韓国側の発表にあった、違法コピーの認識改善キャンペーンである。ただ取り締まるだけでなく、学生に著作権の正しい知識と違法コピーの深刻さを理解させるために、政府と協力してキャンペーンを推進しているとのことだった。韓国政府の違法コピー問題への意識

と位置づけが高いことに感心するとともに、日本でも同様の取り組みをおこなう必要があると感じた。

グループセッション

今回新たな取り組みとして、セミナーの後半にグループセッションがおこなわれた。講義型のセミナーとは違い、全員参加型で、参加者が三つのグループに分けられ、在庫管理、電子書籍、違法コピーなど様々な議題で活発な議論がおこなわれた。初めに自己紹介がおこなわれ、各社の出版物の特徴や規模が紹介された。筆者のグループでは、韓国側は教材出版の出版部が多かったことと、社内にデザイナーがいる出版部が多かったことが印象に残った。韓国側の出席者と直接ディスカッションできるため、一気に距離が縮まったと感じた。各グループでの議論の内容は次のとおりである。

第一グループでは、日本側から教科書の返品・在庫管理について質問があり、韓国側から「教科書をPODに切り替えることでそもそも在庫を持たない方針に変わりつつある。今度PODに切り替えた教科書の在庫を六万冊処分する予定がある」と返答があった。

第二グループでは、電子書籍について議論された。日韓とも現状は紙書籍が主流だが、タブレットを使用した授業を受けている世代が大学生になる頃には電子書籍や電子教科書の需要が高まると想定される。韓国では、書籍を取り

巻く状況が目まぐるしく変化しており、大学出版会の中でも反発はあったものの、発表でも報告があった政府主導の半額教材、バウチャー制度が推進されているとの話があった。

第三グループでは、電子書籍の販売の現状について話された。コロナ禍で一時的に売上は伸びたが、現在は落ち着いている。そもそも電子書籍における学術出版のシェアが少ないとの共通認識であった。また、日本では障がい者への出版社の配慮が義務づけられつつあるが（読書バリアフリー法など）、韓国では、法的な義務づけはないが、各社の自主的な方針として対応する場合はあるとのことだった。

初めての日韓セミナーで感じたこと

今回印象的だったのは、韓国側の判断力と実行までのスピードの速さである。流通システムの違いにもよるが、日本は新しい取り組みに対して多方向への決済を要するなど時間がかかる傾向がある。慎重な判断も重要だが、スピード感ある実行力を見習うところが多いと感じた。

筆者にとっては、初めて参加した日韓セミナーであった。そのうえ理事就任後初めての大きな行事であり、初めての北海道。慣れない出張に右往左往し、自分のやるべき事を完遂できたかどうかは疑問であるが、個人的には大変刺激的で、実りの多いセミナー参加となった。

韓国・朝鮮の出版史と日本

田中美佳

(鹿児島国際大学講師)

「本の日」と「雑誌の日」

一月一日は、日本では「本の日」、韓国では「雑誌の日」である。これは単なる偶然であり、両者の由来は全く異なる。「本の日」は、数字の一を本棚に並ぶ本に見立て、多くの人が書店に足を運ぶようにとの願いを込めて二〇一七年に制定されたものである。一方、「雑誌の日」は『少年』という雑誌が一九〇八年一月一日に朝鮮半島で創刊されたことにちなんだものであり、一九六五年に韓国雑誌発行人協会（現・韓国雑誌協会）がこの日を定めて以来、毎年記念行事が行われるなどしている。

では、雑誌の日の起源になった『少年』とはどのようなものだろうか。この雑誌を出したのは、崔南善^{チェナムソン}という人物である。一九〇五年に日本の保護国となった大韓帝国（一八九七年から一九一〇年までの朝鮮の国号）は、一九

一〇年の韓国併合によって滅び、一九四五年の解放まで日本の植民地となった。崔南善の名は日本ではほとんど知られていないが、植民地朝鮮で一九一九年に起こった三・一独立運動の独立宣言書を起草した人物として、現在の韓国では誰もが知る存在である。

独立宣言書の起草者と並ぶ崔南善のもう一つの顔が、出版社新文館の創設者である。崔南善は一九〇八年に新文館を起すと、同年一月一日に雑誌『少年』を創刊した。『少年』は、挿絵や写真といった視覚要素が豊富で、読者特典を設けるなど当時の朝鮮においては画期的な出版物であった。それゆえ、『少年』の創刊日が雑誌の日とされ、韓国・朝鮮の雑誌文化の起源として認識されているのである。

新文館は、『少年』だけでなく数々の先駆的な出版物を出し続け、朝鮮出版文化の基礎を築いた。実は、こうした

新文館の出版物の画期性の背景には日本の存在がある。新文館に影響を与えた日本との関係に着目しながら、近代を中心とした朝鮮の出版の歴史をみていこう。

朝鮮における新聞・雑誌の登場

朝鮮で活版印刷による近代的な出版物が登場するようになるのは、一八八〇年代にさかのぼる。朝鮮で最初の新聞は、一八八三年創刊の『漢城旬報』である。これは朝鮮政府の機関誌であり、福澤諭吉の助言と、福澤が派遣した井上角五郎の協力により日本の活版技術を用いて刊行された。一方、民間における近代的な出版物の嚆矢は、一八九六年に創刊された『独立新聞』である。朝鮮で最初のハンダルのみで書かれた新聞でもあり、発行に際して福澤諭吉の『時事新報』を参考にしたといわれる。

次に雑誌に目を向けると、朝鮮において本格的に雑誌が刊行されはじめるのは一九〇六年以降である。前年の一九〇五年に大韓帝国が日本の保護国になると、愛国啓蒙運動

という抵抗運動が広く展開されるようになった。愛国啓蒙運動とは、民衆の愛国心を涵養したり知識を啓蒙したりすることを目指した運動であり、愛国啓蒙団体は積極的に機関誌を活用した。

このように、一八八〇年代から保護国期にいたるまでの間に、朝鮮人自身による近代的な出版物が刊行されていたが、それらは政府の政策や各団体の理念を伝えることに主眼を置いた、いわば官報や機関誌としての役割を果たしたものであった。この時期の出版物は啓蒙色が強いものが多く、商業的な要素はほとんどみられなかった。

新文館の設立と『少年』

こうした状況のなかで、出版社新文館が設立される。創設者である崔南善が一九〇四年と一九〇六年の二度にわたる日本留学で衝撃を受けたものの一つが、出版界だった。書店には見たこともない多種多様な出版物が並び、図書館も充実している日本出版界の状況に驚愕した崔南善は、一

神と銃の アメリカ極右テロリズム

ホフマン／ウェア 政治暴力の大半である極右テロ。何がそれを駆動するか。第一人者による検証と対策。田口未和訳 ¥4950

台湾と沖縄 帝国の狭間からの問い

駒込 武編 米中对立下の地政学的分断を越え、ともに平和であることは可能か？歴史認識と倫理的価値に基づく対話。¥3300

恐怖と自由

ミュラー シュクラー「恐怖のリベラリズム」(併録)を指針に今求められる下からのリベラリズムを提示。古川高子訳 ¥4180

鋼の王国プロイセン

興隆と衰亡 1600-1947 [全2巻]
クラーク 辺境の地はいかにヨーロッパの命運を握る大国になったのか。350年の歴史を描き切る。小原 淳訳 上¥5940 下¥6160

静かな基隆港

埠頭労働者たちの昼と夜

魏明毅 台湾の港街を舞台にグローバル資本主義に翻弄された労働者の生を描く珠玉のエスノグラフィ。黒羽夏彦訳 ¥3520

物と経験のあいだ

カルロスカルバの建築空間から
木内俊彦 なぜカルバ作品は特別なのか？その「空間変移」のデザインを、多数の写真を用いて徹底的に分析する。¥7480

未完の建築

前川國男論・戦後編

松隈 洋 新宿の紀伊國屋書店を皮切りに数々の建築設計を手がけ「人間にとって建築とは」を問い続けた人の活動全景。¥7480

東京文京本郷 2丁目20-7 **みすず書房**
tel.3814-0131 fax.3818-6435(税込)
www.ms.z.co.jp



右は新文館が中等学校生向けに刊行した『セビヨル』16号（1915年1月、韓国・独立記念館所蔵）。左は博文館の『少年世界』16巻8号（1910年6月）。

九〇八年に帰国するとすぐに新文館を立ち上げる。

崔南善が編集を手がけた新文館初の雑誌『少年』は、大韓帝国が保護国となり今にも国が滅びそうな国家的危機のなかで、そうした状況に立ち向かい、国の将来を担うことができ

る屈強な精神を持つ少年を養成することをコンセプトにしていた。一方で、読者を鼓舞する論説だけでなく、挿絵や写真といった視覚要素が豊富で、読者投稿欄を設けるなど、誌面の大半を文字が占める無味乾燥な当時の愛国啓蒙団体の雑誌とは一線を画している。

こうした画期性は、実は当時の日本の大手出版社であった博文館の『少年世界』や『中学世界』から着想を得ている。のちに崔南善自身が「日本の児童を対象とする雑誌をまねて『少年』を刊行したと述べているように、たとえば読者投稿欄は明治期を代表する少年雑誌であった博文館の『少年世界』を参考にしており、挿絵は『中学世界』の

ものを用いている。一方で、屈強な精神を持つ少年を養成する際、児童雑誌である『少年世界』の内容はそれほど役に立たない。そこで崔南善は、教訓の要素の強い一般大衆向けの日本書を翻訳して載せていた。このように、日本の出版物を独自に活用しながら、近代朝鮮の出版文化は形成されはじめていくのである。

植民地下の新文館

一九一〇年の韓国併合によって大韓帝国を植民地化した日本は、一九一〇年代を通して武断政治と呼ばれる政策を実施し、朝鮮人の言論、結社、集会の自由を大幅に制限した。厳しい言論統制により朝鮮人がほとんど出版活動を展開できなかったなかで、新文館はこの時期に出版物を刊行しつづけたほぼ唯一の朝鮮人出版社となった。その理由として考えられるのが、検閲当局に警戒されにくい出版物を出していたことである。

新文館は韓国併合後に児童雑誌に着手する。当時の朝鮮において、児童を対象とした出版物は非常に目新しく、一九一三年創刊の『赤いチョゴリ』や『アイドゥルボイ（子どもたちごらん）』といった新文館の児童雑誌は、朝鮮における近代児童文学の嚆矢と評価されている。誌面には、読者である児童に屈強な精神を持つことの重要さを説く崔南善の記事が載っている一方、児童に近づくための手段といえる漫画のような挿絵や、迷路のイラストなどの子どもら

しい要素もみられる。実は、こうした子どもらしい要素も日本由来である。たとえば、四コマ漫画のような挿絵である「タウムオッチ（次はどうなるの）」というコーナーは、現在、朝鮮の定期刊行物における連載漫画のはじまりとされる。この「タウムオッチ」は大部分が博文館の『幼年画報』のポンチ絵を参照したものであり、迷路のイラストも『少年世界』からの転載である。

新文館は、こうした雑誌のみならず多種多様な単行本も出していた。一例として、西洋の小説の翻訳書シリーズが挙げられる。一九二二年にその第一弾として刊行されたのが、『フランダーズの犬』を原作とした『プルサンハントナム（哀れな友達）』である。これは、日本で最初の翻訳書である日高柿軒訳『フランダーズの犬』（内外出版協会、一九〇八年）からの重訳だった。日高による訳本は主人公のネロが「清」、パトラッシュが「斑」と日本風の名前に改変されていることがよく知られている。崔南善は、そこからさらに「清」を「ホウオリ」「朝鮮人の幼名」、「斑」を「パドウギ（斑犬）」と朝鮮風の名前に変えているほか、「木の靴」を「朝鮮足袋」とするなど朝鮮人読者に合わせて手を加えた箇所も多い。

以上のように、新文館は日本の出版物を朝鮮の状況や読者に合わせて活用しながら、数々の出版物を刊行していた。こうして、新文館は武断政治という暗黒時代においても出版物の刊行を維持し、朝鮮の出版文化の土台を築いていっ

たのである。

新文館の経営を通して言論人としての名声を得ていた崔南善は、一九一九年に三・一独立運動の独立宣言書を起草したことで逮捕、収監される。こうして、新文館の歴史も幕を閉じることになる。

運動する日本と韓国・朝鮮の出版界

三・一独立運動後、日本は統治政策を武断政治から文化政治に切り替え、朝鮮人にある程度の言論、結社、集会の自由を認めるようになる。従来に比べて発行許可が格段に下りやすくなり、一九二〇年代に入って以降、『東亜日報』や『朝鮮日報』など朝鮮人による各種の新聞や、多種多様な雑誌が刊行され、ようやく出版文化が開花するようになった。なかでも、一九二〇年に創刊された総合雑誌の『開闢』は植民地期を代表する雑誌へと成長した。同時期の日本では、社会主義的な評論を多く載せた総合雑誌『改造』が人気を博していたが、『開闢』では『改造』や同時期の日本の出版物が多数翻訳されている。その後、日本では一九二四年に大衆雑誌『キング』が創刊され日本出版史上はじめて発行部数一〇〇万部を達成するが、同じく朝鮮でも一九二六年に『別乾坤』という、幅広い層を対象に娯楽記事を豊富に載せた大衆雑誌が刊行され、大きな人気を集めた。

そのほか、一九二二年には朝鮮初の週刊誌『東明』が刊

行されるが、週刊誌は、日本でも一九二二年四月に『週刊朝日』と『サンデー毎日』が創刊されることで本格化した。最先端の出版文化であった。『東明』には、時事報道と合わせて文芸欄も設けられており、エドガー・ウォレスやモーリス・ルブランによるミステリー小説などが収録されている。これらは、「ミステリー愛好家のバイブル」とされた博文館の『新青年』からの翻訳であった。このように、一九二〇年代になると読者層の広がりとともに大衆雑誌や週刊誌などジャンルの幅が急速に広がっていき、その広がりには日本の出版界の流行と結びついていたのである。

さらに単行本の種類も充実し、たとえば「読本」と呼ばれる各種の参考書が広く浸透するようになる。独立運動の理論についての解説書が出版された一方で、農業や料理、語学などの実用書としての読本も多数刊行された。

その後、一九三七年に日中戦争が勃発すると、日本は朝鮮人を戦争に動員すべく皇民化政策を推進し、出版を含めた朝鮮の人々の諸活動に圧力をかけていく。その結果、朝鮮人は出版物の刊行が極めて難しい状況となり、一九四〇年には『東亜日報』と『朝鮮日報』が廃刊に追い込まれた。雑誌の場合は、文芸雑誌の『国民文学』をはじめとして、朝鮮人が創刊し一九四五年の戦時末期まで刊行が続いたものもいくつあったが、それらは日本の戦争遂行に協力的な論調であった。

一九四五年の解放後、韓国では大小さまざまな出版社が誕生し、一九四九年の時点での登録出版社数はソウルだけでも実に八〇〇社に達していた。その後も韓国の出版界は成長を続け、世界有数の出版大国としての地位を築いた。出版不況の今日においても、IT強国である韓国ではいち早く電子化が進み、ネット書店は目覚ましい躍進を遂げている。一方で街の書店は厳しい状況に置かれたが、政府が対策を講じ、最近では個人経営の独立書店が人気を集めるなど、本屋の数が年々減っている日本とは異なり、韓国の書店数はむしろ増加傾向に転じている。

現在、韓国の出版界は日本に影響を与えることも多くなっている。たとえば、近年日本で人気を集めている「科学漫画サブバイバル」という学習漫画シリーズは、韓国の「サラナムギ（生き残り）」シリーズを日本語訳したものである。また、『82年生まれ、キム・ジヨン』をはじめとしてK文学ブームが起こるなど、まさにいま韓国の出版界が注目されている。同様に、東野圭吾や村上春樹などの日本の小説は韓国でもよく読まれ、漫画も根強い人気を誇っている。日本との密接な関係のなかで開花していった韓国・朝鮮の出版界は独自の発展を遂げ、今日においては互いに影響を与え合っているのである。

大学出版部ニュース

表示価格は税込です

大学出版部協会・活動報告

- 一〇月一日(金) 一四時〇〇分～
第五回 営業部会 開催※
- * 部会前: Kinder 説明会
- 一〇月二五日(金) 一五時三〇分～
第五回 理事会 開催※
- 十一月一日(木)～一日(金)
営業部会秋季地方研修会
於: 名古屋
- 十一月二日(木) 一四時〇〇分～
第六回 営業部会 開催※
- * 部会前: 弘前大学付属図書館
三上様 講演
- 十一月六日(金) 一三時〇〇分～
第六回 理事会 開催
於: 日本出版クラブ
- 十一月六日(金) 一五時〇〇分～
第七回 営業部会 開催
紀伊國屋書店上智大学BC訪問
- 第四回 編集部会 開催
於: 日本出版クラブ

(※理事会・部会はZOOMでの開催)

北海道大学出版会

▼赤石恵一著『札幌農学校教授ウィリアム・ペン・ブルックスー生涯とその時代』(A5判・四二八頁・一一〇〇〇円)
札幌農学校の農学教授として一八七七年に二五歳で来日し、北海道農業の近代化に多大な功績を残したブルックス。札幌におけるタマネギ栽培の父として知られるその生涯を辿り教え子たちとの交流を描き出す。

▼村井貴史編著『プロが教えるクラゲ飼育図鑑』(A5判・二六四頁・七九二〇円)
クラゲ水族館で有名な加茂水族館など一五水族館のクラゲ飼育員三五人が一一種の飼育法を解説。一〇四種の興味深い行動を収録したDVD付。

▼山脇直司著『分断された世界をつなぐ思想—より善き公正な共生社会のため—』(A5判・二六二頁・四四〇〇円)
人類の共滅と国内の分断加速が懸念される今、どこに未来への希望を見出せるか。公共哲学と共生思想を基に、教育、福祉、環境、国際、経済、宗教等での共生への道を探り、教養教育と哲学を再定位する希望の書。

弘前大学出版会

▼佐野輝男著『最小の病原—ウィロイド』(A5判・二五〇頁・三四六五円) わずか五十年程前に発見され、国産ホップ生産に大きな被害をもたらした新奇な病原ウィルスよりも小さく、タンパク質情報さえ担わず、四〇〇文字(塩基)にも満たないRNA分子は最小の複製体として生命誕生前の原始生命の姿を留める。その秘められた複製・病原性など多才な機能 宿主適応変異、そして未解明の起源の謎にせまる。植物病理学、生物学、農学、微生物学、感染症学、進化生態学に興味のある方におすすめの一冊。

▼弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究所センター編『地域からの考古学—弘前大学の挑戦』(B5判・一九二頁・二九七〇円) 大学が所蔵する貴重なコレクションとこれまで発掘調査してきた遺跡、そして地理学、民具学、地学、文化材料学、分子化学、農学など多様な分野からのアプローチに加え、災害や気候変動、地域活性化といった学際的な研究を紹介する。豊富なカラー画像の収載と平易な記述を心がけ、幅広い読者に新しい考古学の世界を楽しんでもらえる一冊。

東北大学出版会

▼中村逸春著『A・D・リンゼイの政治思想―ピューリタニズムの現代的展開』(A5判・一九八頁・四四〇〇円) 近代民主主義思想のピューリタンの起源について説き、独自の民主主義論を提起した二〇世紀イギリスの政治哲学者A・D・リンゼイ。本書はリンゼイの政治思想の形成と発展とを丹念にたどりつつ、その知的格闘の軌跡をピューリタニズムの現代的展開という観点から統一的に描き出すものである。

▼島田明夫編著『人口減少社会に対応したまちづくり法制―東北大学公共政策大学院ワークショップの研究』(B5判・二七八頁・六三八〇円) 二〇一八年度および二〇二〇年度に編著者と「人口減少社会に対応したまちづくり法制の研究」を行った院生たちがまとめた同報告書をベースとして、東北地方の人口減少都市の実地ヒアリング調査に基づいた政策を提言。人口減少社会が抱える諸問題の調査と分析は、公共政策大学院におけるリサーチペーパーやワークショップ報告書、地方自治体等のまちづくり政策においても参考になる。

流通経済大学出版会

▼植村秀樹著『平和国家の戦争論―今こそクラウゼヴィッツ「戦争論」を読む』(A5判・三六〇頁・四四〇〇円) 戦後日本の平和主義を支えていたものは何か。これからも平和国家であり続けるためには戦争論が必要である。



▼杉山雅洋著『日本交通政策研究会研究双書36 総合交通体系論の系譜と展開』(A5判・二九六頁・三六三〇円) 昭和四六(一九七二)年に展開され、その後交通政策議論に多大な影響を与えるようになった総合交通体系論の系譜・動向を論ずる。二〇二四年度交通学会賞受賞書籍。



聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・河合優子・重安智子・関口明子・井口厚子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』(B5判・一七七頁・一七六〇円) 今まで幼児教育に携わるために学んできたものが教諭・保育士・保育教諭の到達目標に照らして身につけたかを確認できるように、いじめ・食育・特別支援・幼保小連携等幅広く載せ、自らの課題を自覚し、不足している知識・技能を補い定着できるようにまとめた一冊。

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなを進める特別支援「改訂3版」』(A5判・二六七頁・一七六〇円) 初学者のための特別支援教育本。コンパクトなハンドサイズに、全障害について、子どもの理解と指導・支援に必要な基礎的知識を盛り込んだ一冊。

▼聖徳大学児童学部児童学科編『新しい児童学への招待』(B5判・一〇三頁・一三五九円) 幼児教育・保育・文化・心理の教授陣四〇名が協働制作した入門書。薄手の冊子に児童学の様々な素材が凝縮され学びやすい。

慶應義塾大学出版会

▼山本薫子著『立ち退かされるのは誰か？—ジェントリフィケーションと脅かされるコミュニティ』（四六判・二八八頁・二九七〇円）『ジェントリフィケーション』を六〇年代にはじめて（発見）し名づけた社会学者ルース・グラスと現代都市で進行する課題の共通点をさぐる。

▼島田真琴著『美術館・博物館の事件簿』（四六判・二四〇頁・二六四〇円）日本の「ダリ展」、大英博物館収蔵品、琉球王家遺骨、准胝観音立像等。アートの世界の内幕と真実とは。一六の法廷ドラマとコラムからその舞台裏を明らかにする。

▼阪本真由美著『阪神・淡路大震災から私たちは何を学んだか—被災者支援の30年と未来の防災』（四六判・二二四頁・二六四〇円）三〇年前、未曾有の被害はなぜ防げなかったか。日本の防災体制の問題を指摘し、改革案を提示する。

▼向山直佑著『石油が国家を作るとき—天然資源と脱植民地化』（A5判・二九六頁・四六二〇円）植民地時代の石油は、なぜ、あるはずのない国家を生み出したのか。理論的かつ体系的な説明を与える新鋭による快著。

専修大学出版局

▼松井暁著『社会民主主義と社会主義』（A5判・一七六頁・三〇八〇円）先進資本主義国において、社会民主主義が福祉国家を推進してきた。しかし、グローバル化と情報化の段階にある今日の資本主義のもとで福祉国家を永続化させることは困難であり、そのために、われわれは再建福祉国家からさらに生産手段を社会的所有にした共産主義社会へと進まねばならない。したがって今日の社会民主主義に求められるのは、マルクス派社会主義へと自らを刷新することなのである。本書ではこの展望の根拠について、今日の福祉国家が直面する問題にどう取り組むかを通じて提示する。

▼藤本一美著『戦後政治と「首相演説」3—一九八五—二〇〇四』（A5判・二八〇頁・三七四〇円）戦後の首相たちはいかなる形で日本の現状と将来の姿を国会議員や国民に示してきたのか。第三巻は、中曽根、竹下、宇野、海部、宮澤、細川、羽田、村山、橋本、小渕、森、小泉首相の演説とマスコミ報道を通して戦後政治の一端を探る。

玉川大学出版部

▼近田政博著『改訂版 学びのティップス—大学で鍛える思考法』（A5判・一二二頁・一六五〇円）大学で学ぶことの意味は何か、いかにして大学時代に自発的に学ぶ習慣を身につけるか——。初版を刊行して一五年で大学教育をとりまく環境は激変した。大学での学習を充実させるための五つの「意味」を説き、37の「ティップス」(Tips)をちよつとしたコツ、ノウハウ)を紹介する。あなたの大学生活を成功に導くために役立つ、改訂版。

▼佐久間裕之編著『教職概論 改訂第2版』（A5判・二七二頁・二七五〇円）好評の教職志望者向け基礎テキストの改訂第2版。新たに中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して「や教員免許制度の改正など、最新の情報も盛り込み、コラムも増設した。詳細な注を付し、各章末に課題が設けられ、初学者の自習・自習に最適な構成となっている。巻末には関連する法令等を掲載。



中央大学出版部

- ▼福島弘著『刑事訴訟で問われる刑法の理論Ⅰ』（A5判・一一五四頁・一〇一・二〇円）刑法総論の法律専門書。全体総合的アプローチを採り、主要な判例を歴史的順番に従って検討することで、新たな世界が見えてくる。
- ▼中田一郎著『古代マリ王国の政治と宗教』（A5判・五七六頁・六二七〇円）ハンムラビ時代のマリ文書の本邦初の研究論集、マリ王国を建国したアムル人、王国の支配構造、預言、夢、内臓占い、神々他をテーマとして論述する。
- ▼鳥居伸好編著『長期停滞下の現代資本主義』（A5判・二二二頁・二七五〇円）日本経済の長期停滞およびその背景にある世界経済や新自由主義的政策を検討対象とする現代資本主義分析の理論的・実証的探究の成果。
- ▼関野満夫編著『日本財政の現状と課題』（A5判・一八〇頁・二二一〇円）現代日本財政の現状と課題を、税制改正、所得税収入、財政民主主義、地方交付税、水道事業、国際比較（カナダの財政再建、イギリスNHSの組織再編）から実証的に解明する。

東京大学出版会

- ▼沈志華編／熊倉潤訳『中ソ関係史（上）一九一七―一九六〇』（下）一九六〇―一九九一』（A5判・上巻―四四八頁／下巻―四〇〇頁・各巻五九四〇円）中国共産党成立からソ連解体まで、二〇世紀の世界を知るうえで最も重要な二国間関係である中ソ間の深層を、中国を代表する研究者が克明に描いた話題の大著。
- ▼橋本撰子著『アウシュヴィッツ以後、正義とは誤謬である―アーレント判断論の社会学的省察』（A5判・二八〇頁・五二八〇円）神や道徳や一般意志を拒み、ひとり〈正しさ〉を自由の可能性へと開いたハンナ・アーレント。社会学的想像力との共鳴のなかで、彼女の強靱な思考の核心をつかみだす。
- ▼日黒公郎編／東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター監修『関東大震災と東京大学―教訓を首都直下地震対策に活かす』（A5判・二六二頁・三八五〇円）発生から一〇〇年を迎えた関東大震災の被害や実態とそれへの東大の対応を解説し、予想される首都直下型地震への対策を導き出す。東大主催シンポジウムの成果。

東京電機大学出版局

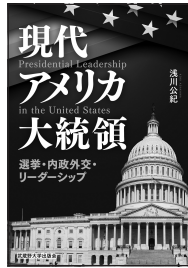
- ▼島田政信著『合成開口レーダによる高精度な地球観測の原理と実際』（A5判・五二〇頁・八八〇〇円）合成開口レーダ（SAR）技術は、マイクロ波レーダを使用して地球表面に照射して、その反射信号を取得し、高品質の画像を生成する革新的な技術。当分野で活躍する著者が開発したシステムは、日本の地球観測衛星に実装されている実績もあり世界的に著名。
- 本書は、SARデータの校正と処理を最適化するための新しいアルゴリズムと手法について解説。地球表面の微細な変化や特定の対象物の検出を高度に精緻化する技術についても詳説。
- ▼吉川忠久著『1・2陸技受験教室（1）無線工学の基礎 第3版』（A5判・二七二頁・三一九〇円）「陸上無線技術士」試験の定番書として高い評価を受ける本書を全面改訂。待望の第3版。
- 近年の試験問題動向に準拠した内容に修正。また、過去問題の解説を記載し、試験対策の充実を図った。

法政大学出版局

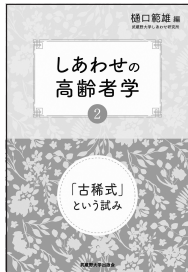
- ▼丸川哲史・岩野卓司編『野生の教養II
―一人に二つカオスがある』(四六判・
四四六頁・三五二〇円) 秩序化・制度化
する前の渾沌とした深淵に潜り込み、飼
いならされざる自由でアナキーな学び
を考える、これからの教養の入門書。
- ▼P・ハントケ著／阿部卓也訳『ハント
ケ・コレクション2』(四六判・三八〇
頁・四四〇〇円) ノーベル文学賞受賞作
家の八〇年代の代表作を収録。スロヴェ
ニアへの旅を描いた長篇『反復』、その「小
さな後奏曲」である中篇『作家の午後』。
- ▼T・ウォルター著／堀江宗正訳『近代
世界における死』(四六判・五五二頁・
五五〇〇円) 国際的に著名な死生学者が、
死をめぐる各国の歴史や文化、法律や制
度による違いに注目しつつ、医療や家族
のあり方、宗教やメディアや戦争の影響
等をグローバルに考察した集大成の書。
- ▼根崎光男著『鷹』(四六判・三〇〇頁・
三五二〇円) 前近代社会で権力の象徴で
あった鷹。古代から現代にいたる鷹狩の
歴史を丹念に綴り、鷹と鷹狩にかかわる
文化としての絵画・文学の展開までも、
権力者と民衆双方の視点から描き出す。

武蔵野大学出版会

- ▼浅川公紀著『現代アメリカ大統領』
(A5判・三〇四頁・三三〇〇円) 大統
領選挙の仕組みから今後の課題まで、現
代の米大統領に関する広汎な事項を扱う。
大統領の動きを追うことで、過去を振り
返り、未来を見据える手掛かりとなる。



- ▼樋口範雄編『しあわせの高齢者学2』
(四六判・三〇四頁・一九八〇円) 「武蔵
野大学で開催された「高齢者学シンポジ
ウム「古稀式」」の講演録を中心に解説。
式の内容だけでなく、その意義や高齢者
学を取り巻く諸課題についても、理解を
深めることができる。



武蔵野美術大学出版局

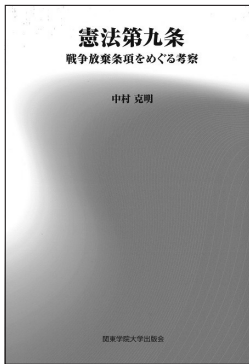
- ▼鈴木明著『ル・コルビュジエの身体図
像』(A5判・二二四頁・四一八〇円)
一九四三年、戦時下の夏のパリ。疎開し
ようと慌ただしく準備するスタッフに、
ル・コルビュジエは謎めいた宿題を与え
た。「手をあげた人間の高さ二メートル
二〇、それを一メートル一〇の正方形を
二つ重ねた中に入れる」、すると第三の
正方形が何かの解答を与えるだろうと。
のちにMODULOR(モデュロール/標
準規格)と呼ばれる「人間的な尺度」の
探究の幕があいた。その年の年末、便箋
の裏に万年筆で、左腕を天に向け伸ばし、
右腕を頼りなく横に伸ばした全裸の男の
スケッチを彼は描く。何となく弛緩した
全身……すべてはここから始まった。経
済的な、効率的な建築設計のためではな
く、居心地のよい空間を求めて人々の振
る舞いを観察し、図面に人体を描き込ん
だル・コルビュジエ。彼の身体図形成を
五期に分類、MODULORの結晶とも言
えるユニテ・ダビタシオンへと至る過程
を多数の図版により画的に考察。フラ
ジャイルな身体の徹底的な観察により見
出された物語。

早稲田大学出版部

- ▼Y・ハツキネン著／河合隆史訳『陰謀脳―私たちが真実から目をそむける理由』（A5判・二四四頁・一九八〇円）人はなぜ陰謀論に惹かれるのか、脳科学の見地から分析。SNSの発達で陰謀論が広まりやすい今、荒唐無稽な嘘に振り回されないためには。
- ▼G・リッツア著／正岡寛司訳『二世紀新版 マクドナルド化した社会―果てしなき合理化のゆくえ』（早稲田文庫・六八八頁・一九八〇円）二〇〇八年に刊行し大好評を得た同名単行本の文庫化。脱人間化社会に対する抵抗を試み、真に人間らしい社会を実現する。
- ▼吉田文彦・遠藤誠治・佐藤丙午・真山全編著『核なき時代をデザインする―国際政治・核不拡散・国際法からみた現実のプロセス』（A5判・三六八頁・三三〇〇円）専門知の結集により、核軍縮と安全保障をめぐる議論に新たな突破口を見出す。一五の提言。
- ▼瀬川至朗編著『「忖度」なきジャーナリズムを考える』（四六判・二四八頁・一九八〇円）早大人気講座「ジャーナリズムの現在」講義録の最新版。

関東学院大学出版会

- ▼中村克明著『憲法第九条―戦争放棄条項をめぐる考察』（四六判・一四六頁・一九八〇円）最近の防衛論議は、戦争の放棄を謳った憲法第九条がまるでないかのように行われている。しかし、防衛力の増強や戦争体制の強化が本場に日本を守ることになるのであろうか。国土狭小、人口稠密で、ガソリン・核燃料で充満している日本が、戦争に耐えられるとは到底思えないからである。この点を踏まえ、本書では戦争放棄条項の制定過程（特にその発案者）を明らかにするとともに、自衛隊を違憲と判定した唯一の裁判例である札幌地裁判決（一九七三「昭和四十八」年九月）の再評価をとおして、第九条の現代的意義と今後の日本の平和主義のあり方を考察する。



名古屋大学出版会

- ▼マーティン・ヘグルンド著／宮崎裕助・木内久美子・小田透訳『この生―世俗的信と精神的自由』（A5判・三八八頁・六三三〇円）有限性の忘却に抗して、今ここにある生の哲学へ――。へ自由な時間）を生きる社会のヴィジョンを示す、探究の到達点。
- ▼吉井文美著『日本の中国占領地支配―イギリス権益との攻防と在来秩序』（A5判・三三〇頁・六九三〇円）既存の法秩序や欧米資本を残存させたまま進んだ日本の中国支配。日・英・中が絡みあう複雑な実態に迫る。
- ▼貝原伴寛著『猫を愛でる近代―啓蒙時代のペットとメディア』（A5判・四九八頁・六九三〇円）いかにして猫は「愛らしいペット」になったのか――。科学や文学から美術まで、垣根を越えて猫観の変容を跡づける、人と動物の感情史。
- ▼森田紘平著『創発と物理―ミクロとマクロをつなぐ哲学』（A5判・二七八頁・五九四〇円）物理の事例に基づくボトムアップの議論と、従来の哲学のトップダウン式議論とを見事に融合。「創発」の伝統的な捉え方を一新する。

名古屋外国語大学出版会

▼名古屋外国語大学英米語学科リーディングチーム編『First Step to College English』(B5判・九六頁・一一〇〇円)今、英語には高度なコミュニケーション能力が求められている。ごく普通の日常的な会話から、勉強や論文などのアカデミックな場面で使える英語へ。ただ語彙を増やすだけでは辿り着けない、「聞く・話す・読む・書く」の四技能を磨き、さらに高度な使用を可能にする一冊。

▼名古屋外国語大学編『ザ・ワールド・ウィズ・アス―世界はわたしたちとともに』(四六判・一一五頁・一三二〇円)世界の二〇言語から集められた、今を生きる人々へ贈る名言・格言集。それぞれの言語・文化の専門家が、背景にある豊かで多様な文化を解説。世界を知る専門家たちの人生の喜びにあふれるエッセイ論考も収録。まさに「世界はわたしたちとともに」あることが実感できる。



京都大学学術出版会

▼栗田伸子著『ヌミディア王国―ローマ帝国の生成と北アフリカ』(A5判・四七八頁・六八二〇円)ポエニ戦争を通じて早期にローマと接触し、その帝国化に影響を与えた北アフリカ。その原住民王国ヌミディアの崩壊の過程から、帝国の生成・発展プロセスの核心を描く。古代地中海世界における歴史の転換点。

▼佐藤成祥著『密かにヒメイカ―最小イカが教える恋と墨の秘密』(四六判・二四〇頁・二四二〇円)全長2センチほどの世界で一番小さなイカ・ヒメイカ。これまでほとんど研究されていなかったイカの、密かな恋のセオリーと墨を使った秘術を解明する。シリーズ10冊刊行。

《新・動物記》既刊①齋藤美保著『キリンの保育園』②竹内剛著『武器を持たないチヨウの戦い方』③坂巻哲也著『隣のポノボ』④小林雅著『夜のイチジクの木の上で』⑤竹下文雄著『カニの歌を聴け』⑥水口大輔著『アザラシ語入門』⑦豊田有著『白黒つけないベニガオザル』⑧山科千里著『土の塔に木が生えて』⑨高橋宏司著『ヒト心あれば魚心』

大阪大学出版会

▼金愛蘭著『外来語の基本語化―現代新聞「叙述語彙」への進出』(A5判・三一〇頁・五七二〇円)外来語の基本語化現象を著者作成の大規模新聞コーパスに基づく計量的な調査と特定の外来語に注目した事例研究から考察する。

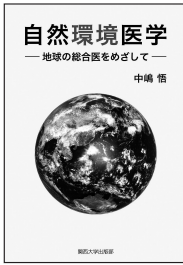
▼瀧口剛著『自由通商運動―とその時代―昭和戦前期大阪財界の政治経済史』(A5判・四二六頁・八〇三〇円)国際協調とナショナリズムに揺れる時代、国内外の政治経済に働きかけて通商を促進しようとした自由通商運動の歴史的意義を考察する。

▼ジョン・T・ダヴィダン著／中嶋啓雄監訳／伊藤孝治・周游・竹澤由記子・中村信之・ミラー・枝里香訳『西洋化の限界―アメリカと東アジアの知識人が近代性を創造する―』(一八六〇―一九六〇)(A5判・四一四頁・七九二〇円)東アジアの知識人たちが西洋の影響を受けつつ独自に近代化を遂げた思想を追う。異色のアメリカ人研究者による近代化論、初の日本語訳。

関西大学出版部

▼麻子軒著『無生物主語他動詞文の中日対照研究―大規模均衡コーパスと多変量解析を用いた新たなアプローチ』(A5判並製・二一四頁・二〇九〇円) 日本語と中国語における無生物主語他動詞文に焦点を当て、新たな視点と方法論でその成立要因を分析する研究。大規模コーパスと多変量解析を駆使し、内省では気づきにくい両言語間の違いを明らかにする。対照研究に新たな可能性を提示する。

▼中嶋悟著『自然環境医学―地球の総合医をめざして』(A5判並製・二六二頁・二二〇〇円) 人類の生存とSDGsのためには自然環境の健康維持が不可欠。本書は宇宙・地球・生命の起源と進化を概観し、自然環境のしくみを解説。災害や汚染の現状を俯瞰し「自然環境の聴診器」の開発と診断・予測手法を紹介。「自然環境医学」という新しい分野を提案する。



関西学院大学出版会

▼サー・ジョン・ペイカー著／深尾裕造訳『イギリス法史入門 第5版 第II部〔各論〕―所有権法史 契約法史 不法行為法史 身分法・家族法史 刑事法史』(A5判・七二二頁・一三二〇〇円) イギリスで法制史の標準的教科書として使用される原著第5版の翻訳書。I部総論に続き本書II部各論をもって待望の全訳完結！

▼小西砂千夫著『地方分與税の10年と地方交付税』(A5判・三七六頁・四四〇〇円) 地方分與税の運用の経過を詳細に掘り起こし、現在にどう引き継がれているかを検証。地方交付税の運用に求められるバランス感覚や、制度の機能、そのあり方についての視点を明らかにする。

▼野村宗訓・柏木恵編著『地域社会のための公共サービス―官民連携の評価と新たな展開の可能性』(四六判・二〇四頁・二六四〇円) 水道・電力・鉄道・空港・大学・病院等の公共サービスが民営化・規制緩和により受けた影響と官民連携の実態を考察。人口減少下で地域活性化につながる政策について、他国との比較を通して解明。

九州大学出版会

▼熊本県立大学総合管理学会編『総合管理の現在地―熊本県立大学総合管理学会創立30周年記念論文集』(A5判・二五八頁・四九五〇円) 行政学と経営学の知見を統合し、さらに政治学や法学、社会学、情報学など関連する領域を包摂した「総合知」としてのアドミニストレーション概念を探究する。

▼西山雄大著『専売建築―と妻木頼黄―「標準化」の思想と実践』(B5判・二九〇頁・七四八〇円) 明治期の官僚建築家として知られる妻木頼黄が所掌した、煙草と塩の専売制度の施行を支えた施設群「専売建築」の計画・整備については、これまで体系的な研究の対象とされていない。本書は、短時日での大量の施設計画を可能にした要素として、妻木以下の組織を挙げた「標準化」への志向を検討の起点に据える。計画の具体相を、関連する法令や諸制度の整備、人員調達や配置などの組織運営、技術・意匠に関する姿勢といった、ヒト、組織、モノの相関性から実証的に読み解き、明治後期から大正前期にかけての建築の近代化過程を新たな視角から捉え直す。

- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
TEL 0952-71-8550 <https://www.daidou-jp.com>
- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル
TEL 03-5402-1811 <https://www.dynic.co.jp>
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16
TEL 03-3474-2821 <http://www.p-taihei.co.jp>
- (株) 太洋社 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1
TEL 058-324-2111 <https://www.p-taiyosha.co.jp>
- (株) 竹尾 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6
TEL 03-3292-3617 <https://www.takeo.co.jp>
- (株) 東京出版サービスセンター 〒110-0016 東京都台東区台東1-33-6 セントオフィス秋葉原401
TEL 03-5688-5801 <https://www.c-enter.com/>
- (株) とうこう・あい 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F
TEL 03-5148-7200 <https://www.toko-ai.com>
- 東光整版印刷(株) 〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15
TEL 03-3632-0801
- (株) トーヨー企画 〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
TEL 075-411-8288 <https://www.talligent.jp>
- (株) 日新広告社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F
TEL 03-3263-9431 <http://www.nissinkoukokusyua.com>
- (株) 日本経済新聞社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
TEL 03-6256-7528 <https://www.nikkei.co.jp>
- 日本宣伝販売(株) 〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278
TEL 048-620-1021 <http://www.nihon-senden.jp>
- (株) 博報堂 〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F
TEL 03-6441-6711 <https://www.hakuhodo.co.jp>
- 藤原印刷(株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5
TEL 03-3291-0191 <https://www.fujiwara-i.com>
- (株) 平文社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7
TEL 03-3944-0301 <http://www.heibun.co.jp>
- (株) 毎日新聞社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
TEL 03-3212-3340 <https://www.mainichi.co.jp>
- 誠製本(株) 〒175-0081 東京都板橋区新河岸3-13-1
TEL 03-4212-2735 <http://www.makoto-seihon.com>
- (株) 遊文舎 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325 <http://www.yubun.co.jp>
- (株) 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
TEL 03-3242-1111 <https://www.yomiuri.co.jp>

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。

一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

- (株) 朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 重細重印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株) アベル社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル301
TEL 03-6256-8133 <https://www.abel-sha.com>
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
TEL 06-6494-1122 <http://www.ainai.co.jp>
- 英文校正エナゴ 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F クリムゾンインタラクティブジャパン
<https://www.enago.jp/>
- (株) A L E 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株) 加藤文明社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株) 糸川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- 港北メディアサービス(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- ㈱コングレゴラブルコミュニケーションズ 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング5階
TEL 03-3510-3750 <https://www.congre-gc.co.jp>
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里6-28-1
TEL 03-6807-8377 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株) 渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株) 眞興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町19-2
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株) 精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikosha-p.co.jp>
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766
TEL 075-255-2288 <https://www.soiei-pb.co.jp>
-



メディア論集成

『電子メディア論』増補決定版

大澤真幸著

四六判並製 442頁 定価 4,180円

メディアによって身体と社会はいかに変容するのか。その問いを、機械的技術のみならず、文字や声にまでさかのぼり原理的に思考した、大澤社会学の根幹をなす代表作。関連文書を大幅増補した決定版。ISBN:978-4-409-24113-4



批評の歩き方

赤井浩太／松田樹編

A5判並製 276頁 定価 2,750円

ここは砂漠か新天地か。noteの人気連載「批評の座標」、ついに書籍化。各論考を加筆修正し、クエストマップ、座談会、ブックリストを増補。さまざまな旅路を収録した「批評ガイド」の決定版。ISBN:978-4-409-04130-7



ヴァレリーとのひとと夏

レジス・ドゥブレ著

恒川邦夫訳

四六判並製 170頁 定価 3,080円

かつてヨーロッパの知性を代表する詩人・思想家として崇められたポール・ヴァレリー。メディアロジーの提唱者である思想家ドゥブレが、IT時代の現代に生き生きと蘇らせる！ 最高のヴァレリー入門！ ISBN:978-4-409-14070-3



果てしない余生

—ある北魏宮女とその時代—

羅新著 田中一輝訳

四六判上製 372頁 定価 5,500円

北魏では子が皇太子となると、その生母が死を賜る「子貴母死」の制があり、王朝全体を揺るがす政変へと繋がっていた。この激動の時代を生き抜いた一人の宮女の生涯を正史と墓誌を縦横に駆使し鮮やかに描く。ISBN:978-4-409-51105-3



優生保護法のグローバル史

豊田真穂編

四六判並製 358頁 定価 3,960円

基本的人権を不可侵で永久に保障すると謳う新憲法を自ら起草したGHQの占領下で、優生保護法はなぜ成立したのか。その背景を世界的な優生政策・人口政策・純血政策の潮流のなかに探る。ISBN:978-4-409-24167-7



史録 スターリングラード

—歴史家が聞き取ったソ連将兵の証言—

ヨッヘン・ヘルベック著 半谷史郎／小野寺拓也訳

A5判上製 502頁 定価 8,250円

歴史家たちは戦線に赴き、将兵や民間人の声を速記録にのこした。公文書館に長らく封印されていた貴重な速記録、待望の邦訳！ 独り戦の真実にソ連側の視点から迫る。ISBN:978-4-409-51103-9

一九六八年と宗教

—全共闘以後の「革命」のゆえ

栗田英彦編

四六判上製 370頁 定価 5,500円

「一九六八年の革命」と「宗教的なもの」は、いかに関係を取り結んだか。近代宗教史研究と社会運動史研究の架橋により、既存の枠組みでは捉えきれない六八年の運動の秘められた可能性を問う共同研究。

ISBN:978-4-409-42026-3

病原菌と人間の近代史

—日本における結核管理—

塩野麻子著

A5判上製 296頁 定価 7,150円

結核の全人口的な感染が予期された近代日本社会において、感染後の身体はいかに統御されるのか。結核史における「潜在的なもの」を主題化することで、結核の顕在的な側面に焦点があてられてきた従来の見方を再構成し、新たな視座を提示する。ISBN:978-4-409-52094-9

◎北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

◎弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

◎東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

◎流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市中平畑120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

◎聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

◎慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

◎専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

◎玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

◎中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

◎東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

◎東京電機大学出版局

〒120-8551 足立区千住旭町5番
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

◎法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

◎武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

◎武蔵野美術大学出版局

〒187-8505 小平市小川町1-736
TEL 042-342-5515 FAX 042-342-9542

◎早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

◎関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

◎名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

◎名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

◎京都大学学术出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

◎大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

◎関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

◎関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

◎九州大学出版会

〒819-0385 福岡市西区元岡744
九州大学パブリック4号館302号室
TEL 092-836-8256 FAX 092-836-8236

◎大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

【発行所】
一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail : mail@ajup-net.com
URL : <https://www.ajup-net.com/>

【表紙デザイン】 奥定泰之

【表紙写真】
photo : 北海道大学構内のポプラ並木



*本誌のバックナンバーは、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードできます

大学出版141号(2025年冬)

2025年2月1日発行
頒価100円(千共)